



申13号 2023年度夏季手当等に関する申し入れ 第2回団体交渉 を行う! ①

第2回交渉前に
中央本部には **7300件** を超える **本音の声**
が寄せられ

交渉最後のやり取り



会社は組合員・社員の現実を直視すべきだ!

組合の主な主張

- ・コロナ禍3年間の我慢と奮闘を強いられてきたのが実感と実態である。その上で 3期ぶりの黒字転換を実現した。先行きが不透明、通期の黒字必達の課題を乗り越えた結果であることを受け止めていただきたい。
- ・成長投資は、設備投資の方へ比重が措かれ続けている。組合員・社員からは負担を受けている実感の意見が多く届いている。
- ・生活実態・実感について、ベースアップ実施後も物価上昇に賃金が追い付いていないことがアンケートからも明らかになった。
- ・退職・離職・採用減の中で利用状況が回復し、業務量が増え、融合と連携が進められ、さらなる生産性向上が求められている。
- ・システムを問わず要員不足の実態が本当に多く報告され、コロナ前にはない実態と実感である。コロナ前より働き度は上がっている。
- ・ジョブローテーション等についても議論してきたが、フィールドの中で選択してキャリアプランを立てても、あたかも要員補充かのような懲通がされて、キャリアプランの実現に程遠い現実も寄せられている。現実を直視していただきたい。
- ・組合員・社員の力、労働力なくして、そしてモチベーション維持・向上なくして、会社の成長はなし得ないと議論してきた。その実現に向けて、労働条件の最たる賃金で応える経営姿勢を見せるべきだという我々のスタンスは変わらない。
- ・好調という言葉は言っていない反面、「順風満帆ではない」や「楽観出来ない」と言われているが、この間、順風満帆で楽観したことはあったのかと思うと、非常に強い問題意識を抱かざるを得ない現状である。
- ・赤字・コロナの状況の中、赤字になれば黒字必達、変化を恐れず果敢に挑戦、チャレンジを続けて欲しいと述べられ、慎重に判断と言われ続けてきた。さらに高い目標達成、モードチェンジが求められている。

**我々の要求に満額での
回答を強く求める!**

会社の主な主張

- ・社員との色々なコミュニケーションを図る中で声がある。当然にも 全てそれが一致するものではないとは思っている。
- ・いただいた声をこの場で実感という形で紹介されたことは、しっかり受け止める。
- ・4月の決算発表の際に新たな定常状態というものを出している。新たな定常状態というのは、コロナ後の鉄道のご利用状況がどれくらいまで戻るかが、新しい定常状態であることを見越している。これが約9割までである。
- ・定期収入が厳しい状態だが、9割くらいと示されている。その目標、数字を前提に今年度の収支計画が組まれている。
- ・2028年度3月期の連結営業利益の目標について、2025年は4,500億円から4,100億円と引き下げている。これは社員の努力が足りないのではなく、環境が変化する中で現実的に必要な目標、チャレンジする部分も含めて積み上げた結果である。
- ・会社の業績が日本一の赤字を出す状況の中で大丈夫なのかという厳しい状況の中で、社員の皆さんは本当に安全・安定輸送、安全がトッププライオリティと奮闘していただいたことは、会社として認識して受け止める。
- ・物価上昇は新賃金で考えるが、昨年の夏以降、物価上昇の要素も含めて回答している。今期においても、物価上昇という状況が、社員の皆さんの生活に一定程度影響を与えていることは認識して議論している。
- ・要求いただいた内容も踏まえながら、社員の皆さんに安心していただくためにも 早期に回答出来るよう準備したい。

この間の処遇改善等の状況も含めて総合的に判断する! その2へ